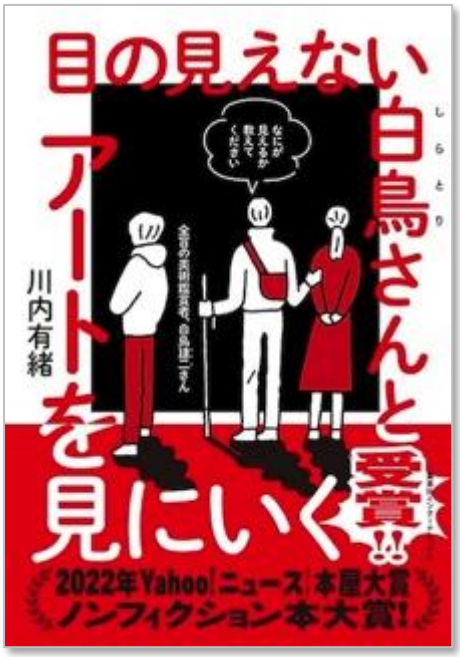
平井尚志の

なめとこ山通信

第７１回　　今年を振り返って

皆さん、こんにちは。2023 年ももうあとわずかですね。皆さんにとって、今年はどんな年でしたでしょうか。終わりの見えなかったコロナ禍も、いつの間にか昔のことのようになっていて、けれど、この 3 年間を学生として過ごした子ども達にしてみれば、失われてしまった時間は、大きかっただろうなぁということを思います。あちこちの人出は以前のように、いやむしろそれ以上に増えている状況があるようですが、私の話をすれば、出かけない習慣が身に付いてしまって、コロナが下火になったからといって、特に積極的に外に出ようということはしなかった１年でした。じゃぁ、何をしていたのかな…と振り返るのですが、強いて言うなら、よく本を読んでいたかもしれません。皆さんは、いかがお過ごしでしたか。

今回の「なめとこ山通信」も、特にネタもないので、今年を振り返ってグダグダとくだを巻いてみようと思います。お時間ありましたら、お付き合い下さい。



まず、今年の初め頃に読んでいて、これは面白いなと思った本を紹介します。『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』（川内有緒・著　集英社）です。これは本当に、様々なことを教えられる素晴らしい本でした。冒険学校のスタッフの側にいながら、どれほど、目の見えない方に共感していただろうかとハッとした思いもした内容でした。基本的には、楽しい本です。全国の学校の図書館に、こういう本を置いて欲しいなと思います。皆さんもぜひ手に取ってみてください。それはそれとして、この本の中に、『心にとって時間とは何か』（青山拓央・著　講談社現代新書）という、以前読んだはずの本が紹介されていて、そんなに面白かっただろうかと気になって、本棚にあるそれを読み返してみたりもしました。ただ、読み返してみても、思い出すことはないし、難しくてやっぱり面白くはなかったです。二度も読んじゃったと思いました。そういう本も、あるんです。

3 月に、大江健三郎さんが亡くなったニュースが入ってきて、大江さんの小説や、芥川賞受賞作を改めて読んだりしていました。そのことは、69 回の「なめとこ山通信」でも少し書きました。芥川賞作品を読んでみようというのは今年ダラダラと続けていて、そうして思うことは、最近の芥川賞受賞作はたいしたことないな、ということでした。なん

か、偉そうに言ってしまいますが。綿矢りさの『蹴りたい背中』も、今村夏子の『むらさきのスカートの女』も、特に自分の心に響くものはありませんでした。読んで面白いのは、今は、直木賞や本屋大賞を受賞した小説の方でしょうか。秋頃に、佐藤究の『テスカトリポカ』を読みました。この手の小説はあまり読まないのですが、面白くて一気に読めちゃいました。犯罪小説です。直木賞と、山本周五郎賞のW受賞作品です。圧倒的な暴力の世界が描かれるので、お薦めはしませんが、凄いなぁと思ったのでした。そういうものも、時々読みます。

前回の会報で、間に合ったら紹介しようかと思っていた本もあります。栗原康・著『村に火をつけ、白痴になれ』（岩波書店）です。今年の 9 月 1 日は、関東大震災から百年目という節目でした。テレビでも様々に取り上げられ、防災に関する注意喚起がなされていました。そして同時期に、「福田村事件」という映画が上映されていたのを、皆さんご存知でしょうか。

1923 年 9 月 1 日 11 時 58 分、関東大地震が発生した。そのわずか 5 日後の 9 月 6 日のこと。千葉県東葛飾郡福田村に住む自警団を含む 100 人以上の村人たちにより、利根川沿いで香川から訪れた薬売りの行商団 15 人の内、幼児や妊婦を含む 9 人が殺された。行商団は、讃岐弁で話していたことで朝鮮人と疑われ殺害されたのだ。逮捕されたのは自警団員 8 人。逮捕者は実刑になったものの、大正天皇の死去に関連する恩赦ですぐに釈放された…。これが 100 年の間、歴史の闇に葬られていた『福田村事件』だ。（映画『福田村事件』公式サイトより）

私は映画を見逃してしまったのですが、あちこちでそういうことが起きていたというのは、うすうすと聞き知っていました。兎にも角にも、震災直後の混乱は、想像を絶するものであったことでしょう。そして、同じように、震災後の混乱に乗じて陸軍憲兵によって殺されてしまったのが、無政府主義者の大杉栄と、その妻、伊藤野枝、おいの橘宗一（6 歳）でした。『村に火をつけ、白痴になれ』は、その、虐殺された伊藤野枝の伝記です。この本も、強烈な印象をもって今年読んだ本として、私の心に刺さるものでした。それで、もう少し、伊藤野枝のことを研究しようと思い、何よりまず野枝の著作を読まなくてはと思ったり、やはり野枝を描いた『風よあらしよ』（村山由佳・著）がＮＨＫのドラマになっていたことを知って、何とか見てみたいと思ったりしていたところでした。最新の情報によりますと、この「風よあらしよ」は『風よあらしよ　劇場版』として映画化され、来年の 2 月から順次公開されるということですから、今から楽しみです。主演の伊藤野枝は、ドラマと同じ吉高由里子が演じます。彼女は、来年１月からの大河ドラマの顔でもありますね。そういう訳で、もう少ししたらまた、伊藤野枝のことを話題にするかもしれません。

今年読んだ本は、だいたい 40 冊くらいでしょうか。特に多くもありませんが、近年の

自分としては、わりと読書をした年となります。それは、通勤スタイルが変わったからというのも、その理由の一つです。今年度は、行きも帰りも始発電車で座れることが多くなったのです。そうして、通勤時間も長くなりました。それで専ら、電車の中では本を読むか、ウトウトしているか、という感じで、私のこの１年は、過ぎようとしています。

　遠くに遊びに行くことはなく、じゃぁ、本ばかり読んでいたかというと、そうですね、映画は、6 本、観に行きました。一番最近は、『アナログ』という映画を観ました。わりと落ち着いた、心温まる良い映画でした。嵐の二宮和也が主演、そのお相手の謎の美女が、波瑠という映画でした。波瑠さんの、清楚な感じが素敵でした。この映画の原作が、ビートたけしの小説ということを後から知って、ビートたけしの才能の広さに、改めて驚いたりもしました。たけしの映画は今、『首』というのが上映されていますね。それも、見てみようかなと、思いました。

　すっかりインドア派な生活になってしまった自分ですが、（そもそも、出不精ではあったかもしれません。）来年こそは、運動して、山にも登りに行こうと思っています。何しろ、新しいザックを買うなど、準備だけはしたのです。通勤電車で座って過ごしてしまっているので、体力は落ちたかもしれません。恥ずかしながら、健康診断の結果も良くなかったので、来年は必ず身体を動かすぞ！　と宣言して、今年の終わりにしたいと思います。
皆さんどうぞ、良いお年を。